

学生の元気は
日本の元気

飛び出せ！学生クラブ

学生オリエンテーリング復活に向けて

小野盛光



この企画は、京都府オリエンテーリング協会会長でもあり、JOA 副会長の久保喜正さんから、昨年10月に関西の学生クラブが危機に立っている。京都大学や東北大学のオリエンテーリングクラブがどのような理由で勢力を維持しているのかオリエンテーリングマガジンで探ってもらえませんか？ 他のクラブにヒントになるものを探りたいという依頼があり、スタートした。

この企画は3部構成になっている。

- I 学生界の現状
- II 学生クラブへのアンケート
- III リーダーは語る

I ではインカレなどの参加者推移から危機感を感じていただきたい。この危機に動き始めた関西地区の状況を載せた。

II では学生クラブのアンケートから成果をあげているクラブの考え方、動きを見ていただきたい。

III では学連理事長、大学クラブで指導にあたっていらっしゃる方、学生時代からトップオリエンティアとして活躍されている方にうかがった。

今後のクラブ浮沈に関わる大きな活動である新入生勧誘が1ヶ月後に迫っている。本誌ではこのタイミングに企画することにより、新入生勧誘→定着→育成→インカレでの成果に結びつけ

ていくためにどのような活動をしていったらよいかを考えて欲しいと願っている。

また、地域クラブ、JOA、都道府県協会や日本学連、地区学連あるいは個々のオリエンティアとして、復活にはどのような活動をしていったらよいかを考える材料になれば幸いである。



I 学生界の現状

インカレの状況

図1はインカレ参加者の推移を示したグラフである。手持ちの資料から作成したため、データの抜けている年があるが御容赦願いたい。棒グラフで白色で示した部分がF(新人)クラスの参加者である。学生オリエンテーリング界の大きな目標でもあり、祭りでもあるインカレの総参加者数は1990年代前半には約1500名の参加があり、その後減少の一途である。Fクラス参加者数も同様に減少している。今インカレの参加者はピーク時の三分の一のとなり、昨年は500名をわずかに超えたが、今年はいよいよ500名を割った。

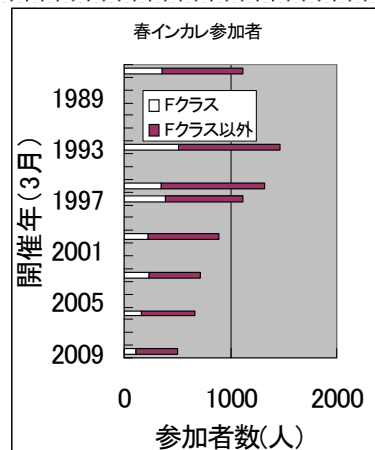


図1 インカレ参加者の推移

ここ 15 年間インカレの参加者は減少の一途をたどっている。その原因はクラブの減少である。93 年にはインカレリレーに参加したクラブは 75 あった。それが昨年は 39 とほぼ半減している。そして、クラブ当りのクラブ員数の減少も合わせて、学生オリエンティアは 1/3 になってしまった。

クラブもクラブ員の減少が、クラブ紹介その他サークルとのクラブ員数比較、魅力的なポスターやチラシ作成、声掛けパワーにも影響を及ぼし、全体として新入生勧誘力低下を招き、それがさらに悪い循環を繰り返すことになっていった。

クラブ員の減少に伴い、立ち行かないクラブが急激に目立ち始めた。とりわけ、関西地区では顕著である。

インカレはすごい熱狂で、涙腺が刺激されたことは過去にいくつもあるが、最近では応援する側が少なく、声援がダウンし、感動がやや下がった気がする。

かつては 2 割しかエリートに出られず、エリート意識もいやおう無く高められた。真に選ばれたものへの憧れはまた、来年への戦う意欲を高めた。

インカレのピークである 1990 年代前半の学生たちは、小学生だった 1980 年ごろに学校で行なう野外活動などでオリエンテーリングを一応体験した人であり、今 40 歳前後となっている。

それに対し、今大学に入ってくる人は小学校などでオリエンテーリングをやったことのない世代であり、新入生勧誘に苦勞をしている。

小中学生で 1 度でも体験しておくことが、クラブへの勧誘を受けたときの受け止め方に大きな影響がでていると思われる。2000 年ごろ御殿場でオリエンテーリングフォーラムという企画があり（現在 JOA が行っているものとは異なる）その中で、宮川達哉氏が子どもときのオリエンテーリング体験は伏流水のようなもので、やがて、再び地表にでてくるとおっしゃっていた。そのときはピンと来なかったが、改めてインカレの参加者の推移を見てみると理解できる。



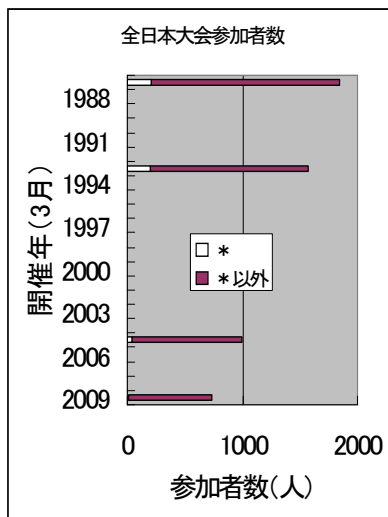
全日本大会への参加状況

インカレ華やかなときは、多くの学生オリエンティアがインカレ 2 週間後にも関わらず全日本大会に参加した。全日本の優勝をさらったのは筑波大学の深田幸子さんや今も活躍中の村越真さんらがいる。

図 2 に全日本大会の参加者数の推移を示す。棒の白い部分は大学生が主に参加している H/D19-20A や M/W20A を示す。

19-20A クラスにも 200 名近い学生が出場し、学連内の頂点を目指すとともに、日本全体でも上を目指す強い意欲があった。2009 年はインカレと全日本大会を同会場で行って開催するという形を取ったにも関わらず、多くの学生が全日本大会には参加しなかった。

まさに学生の意欲が日本全体のオリエンテーリングにおおきな影響を及ぼし手いるといえる。



*は H/D19-20A または M/W20A への参加者数を示す

図 2 全日本大会参加者の推移



近畿連絡会で学生への支援を討議

学生クラブの危機は社会人クラブの危機と強く感じてきており、去る 1 月

23 日に開催された近畿オリエンテーリング連絡会において、朱雀 OK からの提案で関西の大学クラブの危機問題が取り上げられた。

関西学連の加盟大学において現在 1 回生の新入部員が定着しているのは京都大学と奈良女子大学だけという。そのような状況下、京都橘大学オリエンテーリング部も廃部の危機に陥っている。

大学クラブは我が国におけるオリエンティアの主要な輩出源であり、大学クラブが消滅してしまつてからでは、手を差し伸べようにもどうにもならない状況になってしまう。少人数になってしまった大学クラブ、また幹事が単年度で代わらざるを得ない学連の状況を考えると、積極的に学連と社会人クラブが関わりあつて解決策を着実に実行していく必要があることを出席者は共有化できたと感じた。

主な、討議事項は関西地区の大学クラブの新入部員獲得・定着支援のために、新歓期に学連に代わつて社会人クラブがオリエンテーリング体験会を開催し、学生の負担軽減を図りたいという提案があり、関西学連で対応を検討していくことになった。

また、社会人がコーチを行い中から変えていかないと根本的な改革にならない、という意見もあった。

さらに新入生を勧誘する方の数も成果につなげるために大事であり、各大学が協力しあつて行なう必要性を多くの出席者が持つことができた。

